

セ タガヤ ボ ランティア ネ ットワーク



SETAGAYA VOLUNTEER NETWORK

世田谷発！ ボランティア生活発見マガジン
<https://www.otagaisama.or.jp/>

2021.9 No.209

Setagaya Volunteer Association
世田谷ボランティア協会 40周年

今月のトピック

特集 ●
うすいえいいち
追悼！ 碓井英一さん

「世田谷のボランティア活動のために

ありがとうございました！」

まちの市民力！ ● NPO 法人学ボラ・サポート・プロジェクト
せたがやチャイルドラインレポート



イラストレーション ● 松村 豊日
都立園芸高校出身。ご近所でバラ作りが流行ってます♪ いつか家々がバラを栽培してパラストリートになればと夢みてます！
駒沢のオアシスさんでボランティア活動等に参加中！

●わたしの世田谷
駒沢オリンピック公園の円形花壇が好きです。鳥が歌い雲が流れ、風が頬をつたいます！ ご機嫌な犬が張り切って歩き♪ ちょうちよが花を探してます。さあ、外に出ましようヨ！

●特集

うすいえいいち

追悼！ 碓井英一さん

「世田谷のボランティア活動のためにありがとうございました！」

世田谷のボランティア活動の先駆けともなった世田谷ボランティア連絡協議会を立ち上げた一人、碓井英一さんが6月27日に81歳で旅立たれました。車いすですどこでも駆け回り、その道筋で人びとをつなげていきました。世田谷ボランティア協会が設立された頃は理事、「セボネ」の前身である会報誌「ぼらんていあ」の編集委員も務め、本を愛する歌人でもありました。とても多くの方々との縁のあった碓井さんでした。4人の方からの碓井さんに寄せる声をお届けします。

(構成：編集委員 星野弥生)



写真提供：鬼塚正徳さん

● 鬼塚正徳さん
わにづまきのり

（世田谷区福祉移動支援センター「そとでる」事務局長）

碓井英一氏は1932年日本で最初に開校した光明養護学校に、終戦直後の1946年初めての歩行困難な子として入学、高等部第一期の卒業生でした。卒業後は歌人として同人誌の発行や、障がい者運動に尽力され、障がいのある者、そして一人の人間としての思いを込めた言葉と文章で熱いメッセージを多く伝え続けられました。

初めてお会いした1975年頃はお母様とお兄様のご家族と同居されていました。玄関に電動車いすがあって、お部屋に源氏物語全集と和文漢字タイプがありました。その後、同じく障がいのある輝子さんと結婚されて、お二人が車いすで一緒に出かけられるのをよく見かけました。

45年前に初めて碓井さんのご自宅をお訪ねした時、のっけから「木

曜青年学級」と光明の卒業生の社会参加を目指した「けやき学級」や、「世田谷ボランティア連絡協議会」の話をされ、初めて聞く言語障がい者の話はさっぱり分かりませんでした。それ以来、碓井さんから、支援を主体とする「福祉」と、個人の主体性を重んじて共に学ぶ「教育」の地域活動の考え方を教えてもらいました。

当時の社会はバリアーだらけで、乗車拒否や入店拒否が普通でしたが、彼は、障がい者が普通に暮らせる街は、誰もが安心して豊かに暮らせる街になると、まちづくり運動に取り組んできました。車いすでも自由に外出できるように、市民が福祉車両（ハンディキャブ）で送迎活動を始めた「世田谷ハンディキャブ運営実行委員会」（1978年）を作りました。碓井さん作詞の『ハンディキャブの歌』『ハンディキャブに夢のせて、世田谷中を駆けめぐる、みんな支え合い、みんなまで走らせよう、



ハンドィキャブを走らせる会の運転者が集合
(1996年) 写真提供：鬼塚正徳さん

だからハンディキャブは今日も街を「行く」にはその想いが込められています。

その実績をもとに、世田谷区が支援して世田谷ミニキャブ区民の会（1981年）が発足し、碓井さんは事務局長、のちに理事長となりました。また1990年代に区内の福祉輸送のNPOのネットワーク（世田谷移動サービス協議会）の代表を務め、その活動の中で世田谷区へ福祉輸送のセンター

の設立を強く要望したことが、現在「そとでる」として実現しています。その後は移動サービス市民活動全国ネットワークの代表、晩年はハンディキャブを走らせる会の理事長を務めてもらいました。頑固でダジャレが好きだった碓井さんは人を愛し、多くの人から愛された方でした。

● 沢畑勉さん

（世田谷ボランティア連絡協議会「世ボ連」を共に立ち上げた）

碓井さんが1972年に在宅障がい者問題を考える会を作ったことが新聞に載り、それで僕が連絡を取ったのが、世ボ連が始まるきっかけ。

当時、障がい者はまったく外に出ることはなく、障がい者がどうしているのかを知りたくて、碓井さんはこの問題に取り組んだ時、碓井さんは35歳、僕が25才くらいで、若かったねえ。ボランティアと福祉を考える「木曜青年学級」

にいた宮前さん、碓井さん、「兄弟姉妹の会」、「肢体不自由児父母の会」などが、どうやったら障がい者が社会に出ていけるかを考え、役所に行つて話をしていた時、彼は連携プレーの中心にいた。役所とか社会福祉協議会に話しに行くときには、碓井さんを連れていくと、話がスムーズに進むんだ。

世ボ連が出来たのは75年の5・18集会。最初は松原6丁目にあった知的障がい者のための白梅作業所に活動センターがあり、その後梅が丘駅近くの碓井さんの住居の一階に移った。どちらでも、夜の会議の後は金のない若者たちの胃袋を満たすためによくごはんを作っていた。たまに焼きパティイをする、取られないように箸で肉を押さえたりして。

今年で46年目となる「雑居まつり」は、いろんな人が住んでいる世田谷で世ボ連の活動を一つの目に見える形にしようと思いついた。40周年の時に作ったDVDで



81年頃の若き確井さんと沢畑さん
(1982年「ムサビツングステンズ」より)

確井さんは、雑居まつりの言い出しっぺは宮前さんで、自分は単なる賛同者と言っているけど、役所に提出する書類のほとんどを作っていたし、3、4、7回目の実行委員長も務めた。確井さんが書いた雑居まつりの趣意文「それぞれの問題をかかえた人々が、まつりを通じてつながりを深くしあい、ともに生きる地域社会をめざしたいと考えております」という原点は今もそのまま生きている。

雑居まつりには、宮前さんと確井さんの定位置があり、そこにいる確井さんはシンボリックな存在だったね。

確井さんのしゃべりは通訳がないとなかなかわからないけれど、なじんでくると、しゃべろうとしていることを察知できるようになってきた。話が違う方に行くときと突然怒り出す。変に妥協しない、曲げないのが確井さん。

40周年のDVDの中で「雑居まつりはこれからも続くと思うか」と問われた確井さんの答えは、最初に握ったバトンを若い世代に渡そうとする遺言のようなものだ。「ぼくはもう燃料がきたよ。僕らの後は後輩に任せる。僕は長生きしすぎた。みんなが表現できる場をもっと長く続けていってほしいね。みんなが手伝ってできる場ができればいい」。まだまだ確井さんは、世田谷のボランティアの場、雑居まつりの中に居続けるだろうね。

● 興枙寛さん こおろぎひろし

(世田谷ボランティア協会前理事長)

「自由へのはるかな道」

訃報を受け、暑い日差しが照りつける梅丘の街を歩いた。自宅の庭から延びる車椅子のスロープが寂し気に見えた。コロナ禍のなかでの訪問を控えた。

赤堤通りを日本で最初に創立された『東京都立光明特別支援学校』に向かった。校舎の壁を、後輩たちの描くアートが彩っていた。

1940年に生まれたまちの少年は、戦火のなかに2年遅れで入学した。平安文学が好きで、短歌の世界に心模様を描く少年だった。同窓の先輩、花田春兆氏が創刊した『しののめ』に参加した。自らも「鬱屈の日々」「浄心」「抑圧・はるかなる道」などの短歌集を編んだ。

『しののめ』は、文学を愛する障がい者の集いに留まらず、福祉社会の変革への黎明の起点になっていた。1960年代には、健

常者中心の偏った社会に鋭い問題提起をした『青い芝の会』の誕生に進化した。あなたも『木曜青年学級』で同志の絆を結んだ。

道路を横切り路地の奥に入ると『羽根木公園』がある。1976年に仲間と始めた、まちのボランティアが集い、つながり、つなぎ、わかちあう『雑居まつり』はいつもつづく。

緑に萌える樹々をくぐりながら記憶を揺ると、初めての出会いを思いだした。



三井さんと碓井さんの雑居まつりでの写真提供：齋藤有司さん

豪徳寺の街角にあった古ぼけた金物屋の情景が浮かんだ。相棒の沢畑勉さんたちと開いた手づくりのアジュール『地域活動センター』だった。そこには、世田谷のまちで育ち、利他的に生きたいと志す若者たちのピュアなスピリットが燃えていた。あなたは、加熱する議論のなかの真ん中に居て、いつも、いつまでも、首を振り、うなずきながら、ほとぼしる夢を抱擁していた。

の不条理と闘いぬいた軌跡をふりかえり、自らの責任を問い詰めた。人間と人間の肌のぬくもりを感じあう、まちは育ったか。多様性と寛容さで結びあう、ボランティア・ネットワーキングを築きえたかを。

●山崎富一さん
やまさきとみかず

(笑顔せたがや代表)

碓井英一さんは、世田谷ボランティア協会1981年10月発足とともに協会事業の情報・研修の企画委員会、身体障がい者デイサービス検討委員会など幅広く支援者として関わり、職員(特に私)の知恵袋として支えてくださいました。全国ボランティア研究集会やボランティアの国際会議にも数多く参加され、存在感のある方でした。旅行が大好きで、国内、海外(5大陸?)を訪れ、訪問先で学びと感動を与えてくださいました。お酒をこよなく愛された碓井さんありがとうございました。

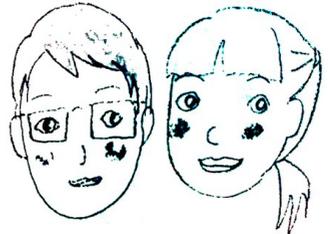
学生の方で子どもの生活を支える
NPO 法人
学ボラ・サポート・プロジェクト



まちの 市民力!!

取材・市川 徹

●
街の中で地域やそこで暮らす
人たちと一緒に活動している
団体を紹介します



NPO 法人学ボラ・サポート・プロジェクトは、世田谷区と協働して、小中学生世代の子どものいる家庭に大学生を派遣している団体です。学ボラの代表で、児童精神科医の田中哲さんにお話を伺いました。

学ボラは、当時区として実施していた学生の派遣事業を引き継ぐ形で2010年に設立しました。登録している学生は区内外問わず約40名、福祉関係のみならず、これまでには看護・心理・教育などあらゆる学部の大学の先生たちを紹介してもらっているそうです。

派遣については、区からの依頼

を受け、学生が子どもに会いに行き、一緒に過ごす時間を積み重ねています。子どもの学習支援が目的ではなく、おしゃべりやゲームなど、子どもと一緒に時間を過ごすことを大切にしています。

学生を派遣しているのは、子どもに年齢が近い大人だけでも専門家ではないということ、親子ともに親しみやすい存在というのが大きな理由だそうです。学生には事前に、自身の役割のほか、対人援助の基本、守秘義務などの研修を行っています。

昨年はコロナ禍で会場が使用不可になったり派遣自粛があったりなど、全面中止になった時期もあり

りましたが、夏過ぎから再開。今では、定期活動とは別に、みんなで宿題をやる、お楽しみ会をやる、みたいな活動も考えているそうです。

地域の中で子どもの育ちを支えつつ、学生自身も成長していく。世田谷区で暮らしている子どもたちへ「あなたは大切な人。同じ地域の仲間だよ」というメッセージを届けることがこの活動の目的とあります。学ボラを利用することで子どもたちが改めて社会との関係をつなげるようになったり、派遣した学生たちもこの活動を経て福祉専門職の道や教育の現場など、広く社会へ羽ばたいたりしているそうです。

「学ボラを利用することで地域にSOSを出してもいいという一助になれば」と田中さんは言います。ぜひみなさんも、同じ地域に暮らす仲間として、自分にできることを一緒に考えていきませんか？

せたがやチャイルドラインレポート

18歳までの子どもたちのための電話活動

日時 7月4日(日) 12:00~15:00 (2部制)

内容 ① 電話活動の体験、② 子どもの権利、③ 子どもの権利条約、④ 子どもの権利条約の活用、⑤ 子どもの権利条約の活用、⑥ 子どもの権利条約の活用、⑦ 子どもの権利条約の活用、⑧ 子どもの権利条約の活用、⑨ 子どもの権利条約の活用、⑩ 子どもの権利条約の活用、⑪ 子どもの権利条約の活用、⑫ 子どもの権利条約の活用、⑬ 子どもの権利条約の活用、⑭ 子どもの権利条約の活用、⑮ 子どもの権利条約の活用、⑯ 子どもの権利条約の活用、⑰ 子どもの権利条約の活用、⑱ 子どもの権利条約の活用、⑲ 子どもの権利条約の活用、⑳ 子どもの権利条約の活用、㉑ 子どもの権利条約の活用、㉒ 子どもの権利条約の活用、㉓ 子どもの権利条約の活用、㉔ 子どもの権利条約の活用、㉕ 子どもの権利条約の活用、㉖ 子どもの権利条約の活用、㉗ 子どもの権利条約の活用、㉘ 子どもの権利条約の活用、㉙ 子どもの権利条約の活用、㉚ 子どもの権利条約の活用、㉛ 子どもの権利条約の活用、㉜ 子どもの権利条約の活用、㉝ 子どもの権利条約の活用、㉞ 子どもの権利条約の活用、㉟ 子どもの権利条約の活用、㊱ 子どもの権利条約の活用、㊲ 子どもの権利条約の活用、㊳ 子どもの権利条約の活用、㊴ 子どもの権利条約の活用、㊵ 子どもの権利条約の活用、㊶ 子どもの権利条約の活用、㊷ 子どもの権利条約の活用、㊸ 子どもの権利条約の活用、㊹ 子どもの権利条約の活用、㊺ 子どもの権利条約の活用、㊻ 子どもの権利条約の活用、㊼ 子どもの権利条約の活用、㊽ 子どもの権利条約の活用、㊾ 子どもの権利条約の活用、㊿ 子どもの権利条約の活用

18歳までの子どもたちのための電話活動を行う「せたがやチャイルドライン」では、7月4日、チャット事業報告会&ワークショップを開催しました。

●子どもの声を聴くということ
 第一部の報告会は東京都市大学の夢キャンパス会場とオンラインで実施し、せたがやチャイルドラインの23年の歩みと、昨夏に開始したチャット事業の報告を行いました。

講師の東京都市大学・児童学科学教授の宮川哲弥さんからは、子どもが主体となって話した言葉や受け止められた体験は、その子どもにとって新たなポジティブな現

実を作り出す側面があること、長年つとめられた児童自立支援施設で出会った子どもやSNSで繋がりを求め性的に搾取されてしまう子どもの現状に触れ、チャイルドラインのように話を聴くおとながいるという社会発信が更に必要とお話をいただきました。

NPO法人さびく代表で第二部のファシリテーターである森郁子さんは、世田谷で、地域のおとながチャイルドラインを作っていく動きを耳にする距離に育ち、23年経った今も続いている意義や、オンラインが突然増えたコロナ禍の今、子どもとのコミュニケーションの取り方を考えていくにあたって、ここで蓄積されていく学びが広く共有されていくことも大切とお話をいただきました。

●叩かない・怒鳴らない子育て
 第二部は夢キャンパス会場で「ポジティブ・ディシプリン」のワークショップを行いました。子

育てで自分が大事にしたい「長期的な目標を決める」、安心安全が確保され、必要な情報やサポートが受けられるよう「温かさを与え、枠組みを示す」、発達段階や気質など「子どもの感じ方・考え方を理解する」、何を解決したいか見定め「課題を解決する」という、普段は2か月の間18時間をかけて行う内容を2時間に凝縮して体験しました。

第一部・二部を通じて、子どもが尊厳を守られながら育つ権利を持っていることを基盤に、どう関わったらいいか試行錯誤していく大切さを改めて感じました。(せたがやチャイルドライン広報担当)



ご相談ください

個別のサポートを必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、ボランティアの力を必要としている方と、ボランティアをおつなぎする橋渡しをしています。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、人と会ったり、集まったりすることが難しい状況ではありますが、困りごとを抱えていたり、どこに連絡したら問題を解決できる

世田谷ボランティア協会では、「発達障害や学習障害の傾向があったり、不登校の経験があり、学習の理解の面で苦労をしている」「勉強に向き合ったりすることが苦手。学校の授業についていけない」などの相談を受け、小学生～高校生の個別の学習支援に取り組むボランティアをお探しして紹介しています。

個別の学習支援を必要としている方、ご相談ください

現在、新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインでの学習支援にも対応しています。勉強への気持ちや、学ぶポイントなど、本人のペースや特徴を尊重してやっています。お気軽にご相談ください。

●問合せ/世田谷ボランティアセンター 担当 原口
TEL 5712・5101
haraguchi@otagaisana.or.jp

ボランティア求む

東 家事や外出のサポートをしてくださる方

東玉川にお住いの80代の視覚障害のある女性が、外出や家事のサポートをしてくださる方を探しています。フラダンスや料理の好きな明るい女性です。長く関わってくださる方とご縁ができたらと思っています。

視力の低下のため、1人では作るのがむづかしくなったお料理を一緒に作ったり、衣替えの手伝いもしていただくと嬉しいです。詳しくはお問い合わせください。

- 日時/月に1〜2回日曜日。時間はお応相談
- 場所/東玉川2丁目のご自宅
- 交通/田園調布駅徒歩10分程度
- 条件/近隣にお住いの女性、1000円/時間(緊急介護人として登録していただきます)
- 問合せ/世田谷ボランティアセンター 担当 青木
TEL 5712・5101
aoki@otagaisana.or.jp

中2女子のオンラインでS 学習支援ボランティア募集

中学2年生の女の子が、学習支援(ZOOM利用のオンライン)をしてくれる方を探しています。学校で習った内容がなかなか定着しない特性があるので、本人のペースでゆっくりとかかわってくれる女性にお願いしたいです。主に英語の学習と、学校の提出課題と一緒に取り組んでほしいと思っています。おしゃべりが好きな明るい女の子なので、学習の合間に流している話題や学校のことなど

- お話できると嬉しいです。詳しくはお問合せください。
- 日時/水・金のいずれか月4回程度、18時以降の1時間程度
- 場所/ZOOMでのオンライン
- 条件/女性(大学生以上)
- 問合せ/世田谷ボランティアセンター 担当 原口
TEL 5712・5101
haraguchi@otagaisana.or.jp

東 木曜日の朝にのみ出しをしてくださる方募集

太子堂2丁目にお住まいの高齢の方が、足腰の具合が悪く可燃ごみを集積所まで持っていくことが難しくなっています。そのため、ごみ収集日の朝、家の玄関前に置いてあるごみを集積所まで持っていくてくださる方を探しています。詳しくはお問合せください。

- 日時／9月4日、5日(土・日)
- 場所／太子堂2丁目のご自宅前からごみ集積所まで
- 交通／三軒茶屋駅徒歩10分
- 問合せ／世田谷ボランティアセンター 担当 今関
- TEL 5712・5101
- inazeki@tagaisama.or.jp

世 車いす利用者の外出付き添いボランティア募集

世田谷2丁目にお住まいの70代の男性が、外出時に車いすを押して下さる方を探しています。近所の眼科や歯科医院へ受診に行きたいのですが、距離や段差があるのでお一人で行くことができません。男性とお話を楽しみながら、車いすを押して下さる方、初心者の方でも難しい技術はなくても大丈夫です。可能であれば、買い物や美術館へも公共交通機関を利用して出かけたかと思っています。詳しくはお問合せください。

- 日時／月1、2回程度で曜日・時間はご相談
- 場所／世田谷2丁目ご自宅周辺など
- 交通／上町駅徒歩7分
- 条件／車いすを押す体力がある方、外出同行した際の交通費は負担します。
- 問合せ／梅丘ボランティアヒーロー 担当 石川
- TEL 3420・2520
- umebora@otagaisama.or.jp

有償スタッフ募集

小 京 不登校・ひきこもりの子ども・若者のもとへ訪問して下さる方募集

世田谷区や近隣区において、不登校・ひきこもり状態にある子ども・若者のもとへ訪問し、関わってくださる方を探しています。訪問を希望する10〜30代の子ども・若者のもとへ出向き、好きなことを一緒にする、話をする、一緒に出かけるなどを通して、安心できる関係を築きながら、ご本人の歩みに寄り添っていきます。ご本人が自分と年齢の近い方の訪問を希望することが多いため、特に20〜30代の方のご応募をお待ちしています。活動日時や内容など、詳しくはお気軽にお問い合わせください。

- ※自治体やご家庭からの依頼を受けて実施しています。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について、自治体やご家庭と相談しながら活動を行っています。
- 日時／月／日曜日10時〜18時、うち1時間半程度、週1回〜2回程度
- 場所／世田谷区や近隣区
- 交通／小田急線・京王線・田園都市線、東横線沿線など
- 条件／20〜30代くらいの方、交通費実費支給、研修あり
- 問合せ／NPO法人子どもソーシャルワーク協会担当水野
- TEL 5727・2133
- <http://www.jcsw.jp/>

東 一人暮らしの知的障害の方の介助者募集

私たちが日ごろ支援している下馬にお住いの一人暮らしの軽い知的障害のある50代の女性の介助者を募集しております。主に土日の夕方から2〜3時間、洗濯など身の回りのことや話し相手などの支援をしていただきます。身辺自立は問題ありません。諸経費、交通費は当方で負担します。資格のない方には謝礼を、へ

- ルパー資格をお持ちの方には賃金をお支払いします。詳細はお問い合わせください。
- 日時／土曜、日曜の夕方2〜3時間ほど
- 場所／下馬地域
- 問合せ／特定非営利活動法人ガチャパンとともに生きる会 担当 酒井
- 070・5563・1475

有償スタッフ募集

世小 障害児通所施設のドライバ募集

NPO法人 ohana kids
 Sでは若林と千歳船橋で障害のあるお子さんの居場所(児童発達支援・放課後等デイサービス)を運営しています。二つの施設のお子さんの家と施設間の送迎サービスを実施しています。送迎時間外は基本的に勤務外としております。朝のみ、夕方の方の方も大歓迎です。詳細はお問い合わせください。

講座・その他・募集

小 代田ビューロー近所カフェ

ウィズコロナ生活も長くなり、身体を動かす機会が減っている方も、頑張って家でも体操している方も、マスクをして間隔をあけて一緒にゆるく身体を動かしましょう。体操を教えてください。ご感想症対策にご協力ください。

●日時/9月18日(土)
 ●1回目 13時15分〜14時
 ●2回目 14時30分〜15時15分

●場所/代田ボランティアビューロー

●日時/朝8時半〜10時半、夕方15時半〜16時

●場所/若林3・23・5・1003及び船橋1・38・14・1階

●交通/松陰神社前駅徒歩4分、千歳船橋徒歩10分程度

●条件/普通免許所有

●問合せ/NPO法人 Ohana kids 担当 友岡・高山
 TEL 6453・4850
 info@ohanakids-setagaya.com

●交通/世田谷代田駅徒歩すぐ

●参加費/100円(お茶代)

●申込み/お電話かメールで。メールの場合は件名に、「9/18ゆるゆる体操参加希望」とし、本文にお名前と電話番号を明記して下さい。

●問合せ/代田ボランティアビューロー
 TEL 3419・4545
 daitaboron@otagaisama.or.jp

小 電話相談に対応するボランティア相談員養成講座

社会福祉法人子どもの虐待防止センターでは、1991年から虐待や育児に悩む方からの電話相談を行ってまいりました。このたび、電話相談に対応する「ボランティア相談員」の養成講座を開催いたします。ぜひ当法人の活動にご協力ください。募集要項、プログラム、日程等、詳細はホームページリンクをご覧ください。

●日時/10月24日(日)〜全9回

●場所/Zoomによるリモート
 ●国立オリンピック記念青少年総合センターにて対面での受講

●交通/参宮橋駅徒歩7分

●募集人数/12名(書類選考あり)

●参加費/22000円

●条件/全出席可能な60才までの女性、相談員登録後1年間は必ず平日に週1回4時間以上のボランティアが可能な方、定例会に出席可能な方

●問合せ/社会福祉法人子どもの虐待防止センター 担当 土方
 TEL 6909・0981
 moushikomi@ccap.or.jp
 https://www.ccap.or.jp/support/volunteer

【助成先募集】2022年度「東急子ども応援プログラム」

このプログラムでは、子どもたち一人ひとりが望む「幸せ」につながることを願って、皆さまの活動を支援します。助成対象となる活動子どもを取り巻く社会課題の解決を目指す活動例として、以下になります。条件等は詳細はホームページをご覧ください。

①子どもが安全で安心できる場を提供する活動

②障がいや難病とともに暮らす子どもや家族を支援する活動

③外国にルーツを持つ子どもたちの支援や多文化共生を目指す活動

④子どもの「生きる力※」の向上につながる活動

⑤子どもたちの安全・安心な暮らしを支えるコミュニケーションをつくる活動

⑥その他、本プログラムの趣旨に合致する活動

●募集期間/9月1日〜15日必着

●問合せ/東急株式会社
 https://kodomo.tokyu.co.jp/

上記掲載記事は8月17日時点の情報です。変更となる場合がありますので、詳細は問合せ先へご確認ください。

小 不登校経験者の話を聞く会

子供・若者の居場所、手作りの育ちの場として長年運営してきましたが、近年、さらにこうした学校外の場の必要性が高まってきています。不登校のお子さんとお親御さん、関心をお持ちの方、気楽にご参加ください。

●日時／9月26日(日) 14時～15時

小 9/25 梅丘失語症カフェ

「失語症」をご存じですか？

脳卒中や交通事故などで脳が傷つき、言葉の「読み・書き・話す・聞く」能力が低下してしまったり状態が失語症です。梅丘失語症カフェでは、失語症会話パートナー(ボランティア)が失語症のある人と一緒に活動している様子をご紹介しています。また、失語症のある人は、人により症状がさまざまですが、会話パートナーがじっくり会話を重ね、個々の症状に応じた会話を楽しんでいます。

●会話パートナーさんもぜひご参加ください！梅丘失語症カフェには、会話の場を求めて参加される失語症の方がいらっしやいます。ぜひ力をお貸しください。

以前は2階で開催していましたが、

●場所／NPO 僕んちフロア(代田4・32・17・B)とZOOM

●交通／梅ヶ丘駅徒歩10分

●参加費／500円

●条件／事前申し込み制

●問合せ／フリースクール僕んち

●親の会

TEL 3327・7142

fshoum@ahoo.co.jp

が、梅丘ビュローでは7月より1階の会議室も使えるようになり1階で開催しますので、アクセスしやすくなりました。

※新型コロナウイルス感染症予防のため、定員を抑え、カフェ形式を避けて、ミニ講座形式で行います。

●日時／9月25日(土) 13時半～15時半

●参加費／300円

●場所／梅丘ボランティアビュー

ロ

●交通／梅ヶ丘駅徒歩5分

●条件／必ず事前予約

●問合せ／梅丘ボランティアビュー

TEL 10

TEL 3420・2520

uneboraa@otagaisama.or.jp

せたがやチャイルドライン寄付・ご支援のお願い
子どもをささえる活動をささえてください

① 寄付・ご支援のお願い

せたがやチャイルドラインは、18歳までの子どものための電話です。電話を受けるのは研修を受けたボランティアです。

通常はハザーや手づくり品の販売などで活動資金の一部を調達していますが、イベントの中止などにより、活動資金を確保することが難しくなっています。子どもをささえる活動をささえるために、寄付のご協力をお願いいたします。

●郵便振替口座にお願いします。

●口座番号／00150・8・279963

●加入者名／社会福祉法人世田谷ボランティア協会

※この口座への寄付は所得税の寄付金控除の対象にはなりません。

通信欄に「寄付申込書せたがやチャイルドライン」とご記入ください。

② 講義集の販売

受け手講座の内容をまとめた講義集「子どもに育ててもらったおとなたち」をメールでご注文いただけます。この講義集は受け手養成講座のテキストでもあり、せたがやチャイルドラインが大切にしている「子どもへのまなざし」がぎゅっと一冊にまとめられています。受け手講座に関心のある方や、子どもとのかかわりに悩む大人の方にもぜひ読んでいただきたい内容となっています。

●価格／1冊1000円(税込)。お支払いは後日お振込みとなります。(別途送料)

●注文方法／郵送ご希望の方は、「お名前・送付先ご住所・電話番号・冊数」をご記入のうえ、メールでお申し込みください。

●問合せ／せたがやチャイルドライン

TEL 5712・5101

childline@otagaisama.or.jp

世田谷ボランティア協会の活動・支援拠点

●「市民が主役」のボランティア活動の拠点●

- 世田谷ボランティアセンター 〒154-0002 下馬2-20-14 TEL (5712)5101 FAX (3410)3811
- 梅丘ボランティアビューロー 〒154-0022 梅丘1-8-9 TEL (3420)2520 FAX (3706)2854
- 代田ボランティアビューロー 〒155-0033 代田2-20-6 TEL (3419)4545 FAX (3412)3210
- 玉川ボランティアビューロー 〒158-0094 玉川2-1-15 TEL (3707)3528 FAX (3708)3058
- 砧ボランティアビューロー準備室 〒157-0066 成城6-3-10 TEL (6411)4007 FAX (6411)5888

●いのちを大切にすると「ふらっと」&「with」です●

- ケアセンター「ふらっと」 〒154-0002 下馬2-20-14 TEL (5712)5105 FAX (3410)3813
- ケアセンター「with」 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋1F TEL (6805)4715 FAX (6805)4718

●くらしを紡ぎ、わかちあう「結」と「連」●

- ケア相談センター結(ゆい) 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (5433)2830 FAX (6383)2156
- ケアステーション連(れん) 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (6805)4716 FAX (6805)4718

●障がいにとまなう「困った！」を話せるところ●

- 地域障害者相談支援センター ぼーとせたがや 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (6804)0405

●でんわだから、はなせるね！ 18さいまでのこどもせんようでんわ●

- せたがやチャイルドライン こどもせんようでんわ TEL (3412)4747 0120-99-7777(フリーダイヤル)
*事務局は世田谷ボランティアセンターにあります

拠点は今… 今月のおススメ！

◆センター&ビューローより

9/25(土)に梅丘ボランティアビューローで開催する失語症カフェに参加してみませんか？ 失語症当事者、失語症会話パートナー、またはご興味のある方、ご参加お待ちしております！ 詳細はP.11をご覧ください。

◆ふらっと& withより

新型コロナウイルス感染拡大と隣り合わせの毎日。それでも、顔を合わせることの大切さを実感している毎日です。そんな中、涼しい風を期待しつつ、散歩をかかささないケアセンターふらっとです。

◆結・連より

介助を必要としている人がいます！世田谷を走り回っています。ヘルパー募集継続中です！

◆チャイルドラインより

夏休みが明けるこの時期も、チャイルドラインは子どもたちからの電話を待っています。話したいことがある時、安心してかけてきてほしいと願っています。

編集後記

■知人のSNSの投稿で、碓井英一さんがお亡くなりになったことを知りました。私自身、雑居まつりで1回くらいしかお目にかかったことがありませんでした。知人から碓井さんの事をお聞きし、世田谷のボランティア活動のためにたくさんの活動をされていたことを知り、多くの方に知ってもらいたい、私自身もっと知りたいと思い、特集ページを組みました。

■今年の夏の思い出はチョウのさなぎから羽化を見れたことです。感動しました(こ)

- 発行
社会福祉法人
世田谷ボランティア協会
〒154-0002
世田谷区下馬2-20-14
TEL 03-5712-5101
FAX 03-3410-3811
- E-MAIL
setabora@otagaisama.or.jp
- ホームページ
<https://www.otagaisama.or.jp/>
- 発行人
横山 康博

